

桃巖寺の参道

写真は中日新聞 4 月 2 日市民版。名古屋の名所や穴場など、お気に入りの風景を映して投稿し、投票で上位 20 点を選ぶ「第 3 回まちなみデザイン 20 選」。桃巖寺の参道がトップに選ばれた。まさに「トップ」

ニュースだ。(ただし私は投票していない)
レポートでも何回か紹介してきたが、本山から名大に歩くとき桃巖寺の前を通る。だらだら坂道なので、ここでよく休憩する。



写真のように秋の紅葉がいちばんだが、春の桜が散り、新緑の参道も好きだ。こんな参道に「賛同」してもらえるだろうか。

『千種区の歴史』1981 年に桃巖寺が案内してあったので、一部だけでも紹介しておきたい。

天文 18 年 (1549) 3 月に没した織田信秀の菩提寺である。寺名は信秀の法名「桃巖寺道見大禅定門」よりとった。末森城主であった信行が、父信秀の霊を慰めるために末森村二本町 (現在の穂波町付近) に建立したのが始めである。開山は快翁玄俊、正徳 2 年 (1712) 再興して現在地に移転、270 余年になる。

この寺には信秀と信行の墓がある。信行は兄信長に清洲城で謀殺され、この寺で葬られ、「松岳道悦」とおくり名された。境内は四千坪余りあり、四季折々に花を咲かせ、静寂なやすらぎの場所として親しまれている。

桃巖寺境内には珍しい樹木がある。本堂の桜は、ヒガン桜系統のもので樹齢二百年以上の老木で、天然記念物に指定されている。もう一つ指定されているものに、四方竹がある。四角竹ともよばれるもので、中国の原産で竹生島より移植したという。



こんな人気トップの桃巖寺参道が、毎朝のように眺められることを感謝したい。

(2017 年 4 月 21 日)